

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

年初からドル安・円高が続いてきたドル/円相場は、6月のEU離脱を決めた英国国民投票以降、何度か100円割れを見たものの、底抜けを回避してきました。

これは、年初からのドル下落幅が20円を超える大幅なものとなっているなか、根強い米国の利上げ観測と日銀による追加緩和期待が背景にあるものと思われます。

10月後半に入りこれまでドルの頭を抑えてきた上値抵抗を突破し、7月以来となる105円台を回復しました。

【ドル/円 週足】



これにより99円台をボトムとする逆ヘッドアンドショルダーを形成しているようにも見え、中期的な底を打った可能性が高くなっています。

年末に向けて107円～108円を目指す動きが期待されます。

しかし、来年を考えるとドルが再び下落するリスクは高いように思われます。

米国の継続的な利上げは困難となりつつあり、日銀の追加緩和策も手詰まり感が露呈してきています。

相場の大きな流れを見ても、一旦始まった円高や円安の波が1年未満で収束する例はほとんどなく、来年も今年の流れを引き継ぐ可能性が高いと考えられます。

年末には52週移動平均線が108円以下に下がってくるものと考えられ、この水準でのドルの頭が抑えられるのかを見極める必要があるでしょう。

ドル/円相場のトレード戦略

■ 短期展望

先週は、米12月利上げを織り込むかたちでドル買いが先行し、ドルは7月29日以来となる105円53銭まで上昇しました。

しかし、週末に、「米FBIが民主党クリントン大統領候補の私用メールに関する調査を再開した」との報道を受けて、リスク・オフのムードが強まり、ドルは104円半ばまで押し戻されて週を越えました。

今週は、日米の金融政策決定会合が行われ、ともに現状維持がコンセンサスとなっていますが、米FOMCで声明文に12月利上げの確度を高めるような文言が盛り込まれれば、ドル買い要因となり先週の高値を越えていく展開が期待されます。

そうでない場合は、週末に米雇用統計を控え模様眺めのなか、クリントン氏のメール疑惑問題がドルの上値を抑えることになりそうです。

したがって、今週の予想レンジは103円50銭～105円50銭をベースとして、FOMCや雇用統計の結果如何では107円50銭程度までの上ぶれリスクを考えておきたいと思います。